

---

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

---

<CUE>利用教育委員会通信 第72号(19巻3号) 2009.2.20 発行

---

■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信  
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会  
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

---

- ・「<CUE>利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
  - ・<CUE>とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
  - ・利用教育関連の情報をお寄せください。
  - ・メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp
- 

□ 目次

- (1) 第13回図書館利用教育実践セミナー(in 京都)のご案内
  - (2) 第10回図書館総合展フォーラム講演会の報告
  - (3) 第169回図書館利用教育委員会議事録
  - (4) 第170回図書館利用教育委員会議事録
  - (5) 図書館利用教育文献一覧(2008年10月~2009年1月発行分)
  - (6) 編集後記
  - (7) 図書館利用教育委員会委員
- 

- (1) 第13回図書館利用教育実践セミナー(in 京都)のご案内

●日時：2009年3月14日(土) 9:30~13:00

指導サービス専門家としての能力開発を！

図書館員のメディア活用力を問う  
ーアニメ世代にどう教えるかー

アニメ世代の利用者にとって、図書館員が作成する各種の広報媒体、配付資料、スライド、ビデオ教材などは魅力的でわかりやすいだろうか。図書館員は情報の探索・整理の領域だけでなく、表現・発信の領域でもプロとしての技を磨く必要がある。アニメの発展史を振り返れば、視聴者の興味を惹くための必死の工夫を読み取ることができる。アニメ世代の利用者特性を意識した情報リテラシー教育の実践事例から各種の教材や広報メディアを企画制作するコツを学びたい。二本の講演と質疑応答の中で、図書館員のメディア活用力を見直し、集客力と指導力を強化するための新しい視点を提示し、図書館員の能力開発問題について今後の取り組みの方向性を確認したい。自由活発な討論に多数ご参加を！

◎コーディネーター：問題提起

教える側の表現力は大丈夫か  
ー広報と教材の質を上げるにはー

仁上幸治氏（早稲田大学図書館）

図書館利用者と一口に言っても、実態はメディアの好みも活用行動も多種多様である。特に、メディアの受容や発信を生活の一部として育ってきた新しい利用者層はメディアを見る目が肥えている。彼らに対して図書館側が提供する広報や利用教育教材の各種メディアの最適な形はどんなものか。思えば、司書課程では資料としてのメディアの選択・収集・管理については学んだとしても、手段としてのメディアをどう作るかはほとんど習ったことがない。現場の実務で必要不可欠なのに身につけていない表現能力を私たちはどう獲得していけばよいのか。司書養成や研修における専門性論議に一石を投じてみたい。

◎講演 1：理論編

若者とアニメの特別な関係  
ーアニメのリテラシーから学ぶー

有吉末充氏（京都学園大学）

『図書館戦争』のアニメ化をきっかけに、中・高校生たちが図書館に

押し寄せたという現象は、アニメというメディアが若い世代にいかに大きな影響力を持っているかを再認識させた。アニメはマンガやゲームとともに、いまや若者にとってなくてはならないメディアとなりつつある。日本のアニメは欧米のそれとは表現や内容の上で明らかに異なる特徴を持っているが、なぜアニメは日本でこのように独自の発達を遂げたのだろうか。今回はアニメの発達史を俯瞰しながら、日本でアニメがここまで発達した理由はなにか、世界中の人々若者が日本のアニメに魅せられるのはなぜかを考えていく。若者がメディアに何を求めているのかを知ることは、サービスや広報活動を行う上でも重要なヒントを与えてくれるはずだ。アニメをメディアとして分析する作業を通して、アニメ世代の人々がメディアに何を期待しているのかを知り、彼らに何かを伝えていくことはどのようにして可能となるのかを探してみたい。

## ◎講演 2 : 実践編

### 高校から大学へ情報リテラシー教育をつなぐ ー 『図書館戦争』をメディア読解の教材に変えるー

天野由貴氏（椋山女学園高・中図書館）

今、学校図書館では、メディア活用能力を育成するさまざまな取り組みが行われている。しかし、その取り組みは学校によって異なり、学校間格差を生んでいることも事実である。さまざまな情報リテラシー教育の背景を持つ生徒が大学に進み、新たな情報リテラシー教育を受けるが、その内容は、彼らの背景を反映し個別化されたプログラムなのだろうか。父親を斧で殺害した少女の事件によって突然アニメ放送が中止になった。中高生に大人気の『図書館戦争』の世界のように、国家がメディアを規制するかもしれない。生徒たちは、「知る権利」「子どもの権利条約」「メディア規制」「表現の自由」など、これらのキーワードからメディアを活用し情報を読み解き、自らの疑問に答えを出した。その土台は情報リテラシー基礎教育「図書館メディア・オリエンテーション」。その実践から、高校から大学へどのように情報リテラシー教育をつないでいったらよいのか、そのヒントを提供したい。

- 会場：キャンパスプラザ京都（JR 京都駅ビル向かい）5階第1会議室
- 対象者：図書館職員，教職員，教育関係者，マスコミ・映像業界関係

者, 一般

- 主 催 : 日本図書館協会
- 定 員 : 280 名 (申込先着順)
- 参加費 : JLA 会員 500 円 / 非会員 1,000 円
- 申 込 : メール申込。締切 3 月 6 日 (金)。  
担当 : 事務局 久保木 : cue@jla.or.jp
- 詳 細 : 図書館利用教育委員会ホームページ  
<http://www.jla.or.jp/cue/>

●申込書

-----  
《第 13 回図書館利用教育実践セミナー》参加申込書 :

[2009 年 3 月 14 日 (土)]

- 申込日 :
- 氏名 (氏名ヨミ) :
- JLA 個人会員 / 施設会員 / 非会員 (会員の場合は会員番号 :            )
- 所属 :
- 住所 :
- 電話番号 :
- 電子メール :

-----  
※記入いただいた情報は, 今回の研修の企画・運営の参考にするほか,  
今後, 研修等の情報をお送りする場合などを除き, 利用, 公表すること  
はありません。

=====

(2) 第 10 回図書館総合展フォーラム講演会の報告

多メディア時代の図書館にふさわしいアニメのつきあい方を

青木玲子 (埼玉県男女共同参画推進センター)

日本図書館協会 (企画・運営: 図書館利用教育委員会) は, 11 月 28 日,  
有吉末充氏 (京都学園大学) による講演会「アニメリテラシー—アニメを  
映像メディアとして読み解く」を開催した。アニメは, 子ども, ヤング  
アダルトから, さらに中高年にまでに観客は広がり, 今日の情報メディ  
アについて考えるとき, 「アニメ」を避けて通ることはできない。

はじめに講師は、なぜ今、アニメリテラシーなのかと問いかけた。アニメの発達史をふり返り、その読み取り方の新しい視点を提供した。日本アニメが国際的評価を得て、日本を代表する文化となり、表現を発達させたプロセスを映像とともに語った。文化としてのアニメや子供とアニメの関係についても分析があった。アニメ評価の現状と問題点を明らかにしてすぐれた作品を紹介し、新しい創造力を養うことを今後の多メディア時代の図書館の課題として結んだ。

大学図書館員に加えて今回の参加者は、アニメに魅せられている人、研究者、企業人、学生と多様であった。映像を使ったプレゼンのわかりやすさ、面白さに評価が多くあり、「アニメ映像を文化として受け入れるきっかけとなった」「図書館とアニメの視点が面白かった」「青少年向けのアニメの分析、対応が聞いてみたい」「アニメを冷静に語るというのは珍しい」との感想が寄せられた。

---

### (3) 第 169 回図書館利用教育委員会議事録

開催日：2008 年 11 月 28 日（金）12 時～14 時

場所：パシフィコ横浜会議センター 6 階 ベーブリッジカフェ

出席者数：8 名 欠席者数：3 名

#### 議題

##### 1. 第 10 回図書館総合展（フォーラム）事前打ち合わせ

2008 年 11 月 28 日（金）15：30-17：00 講師：有吉末充

役割分担の確認

配布資料準備（袋詰）：全員

挨拶：青木 司会：戸田

受付：和田 天野 毛利 高田 久保木

カメラ・録音・照明：石川

懇親会・講師慰労会（18：00-20：00）青木

アンケート集計：石川

通信・図書館雑誌 2 月号報告：青木

##### 2. 京都セミナー関係

2009 年 3 月 14 日（土）9：00-13：50（部屋確保時間）

キャンパスプラザ京都 5階第1講義室 289名

講師：有吉 天野 コーディネータとして仁上さんに依頼

テーマ：総合展のテーマベースに行う

3. 利用教育ハンドブックWGの交通費費用について

図書館利用教育委員会の一時立て替えとすることが承認され、支払われた。

4. 議事案

20周年記念事業プロジェクト関係については、時間がなく次回委員会検討事項とする。

5. 全国図書館大会

2009年10月30日(金)

全体会：明治大学アカデミーホール(ディスカバー図書館2004の会場)

6. 次回の図書館利用教育委員会

開催日：2009年1月10日(土)14時～17時30分

場所：(社)日本図書館協会 5階第1会議室

新年懇親会 20周年プロジェクト 18時～

---

(4)第170回図書館利用教育委員会議事録

開催日：2009年1月10日(土)14時～17時30分

場所：(社)日本図書館協会5階第1会議室

出席者数：9名 欠席者数：2名

第169回議事録確認

議題

1. 京都セミナー 企画

日時：2009年3月14日(土)9:30-13:00

(部屋確保時間 9:00-13:50)

場所：キャンパスプラザ京都 5階第1講義室 289名

タイトル：「指導サービス専門家としての能力開発を！」

図書館員のメディア活用力を問う  
—アニメ世代にどう教えるか—

講師：有吉末充（京都学園大学）

天野由貴（相山女学園高・中図書館）

コーディネーター：仁上幸治（早稲田大学図書館）

2. 来年度出版計画（学校図書館 WG）  
2009 年度出版をめざし，出版企画書を提出。
3. 20 周年記念事業プロジェクトについて
  - 1) 図書館利用教育委員会のアーカイブ資料作成，web 公開
  - 2) 図書館利用教育委員会グッズの開発・作成
  - 3) 実践セミナーシリーズとして，図書館利用教育実践セミナーをまとめる
  - 4) 出版記念シンポジウム
4. 2009 年度委員会事業計画（案）
5. 2008 年度委員会事業進捗状況調査（案）
6. 第 95 回全国図書館大会（東京）
7. 委員の交代検討
8. メルマガ・ホームページの広報計画について
9. その他  
総合展報告

---

(5) 図書館利用教育文献一覧（2008 年 10 月～2009 年 1 月発行分）

・対象誌は次の通りです。

『IAAL ニュースレター』『医学図書館』『学校図書館』『学校図書館学研究』『私立大学図書館協会会報』『大学図書館研究』『図書館雑誌』『ほすびたるらいぶらりあん』『丸善ライブラリーニュース』

・この文献一覧の情報は，当委員会委員が現物により収集したものです。

内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方は、ぜひご連絡ください。

- ・収録対象期間には多少ずれがあります。
- ・上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。
- ・一部の文献には解題を付し、担当者の署名を末尾に記しました。
- ・書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等以示し、館種別にリストアップしました。
- ・◆は利用教育関連文献、◇は少し広く採録した参考文献です。

---

### 【大学図書館】

- ◆石川敬史「現場からみた大学図書館における利用教育実践の広がりと可能性—図書館利用教育委員会の活動を通して」（特集・大学図書館と利用教育）『図書館雑誌』102(11), 2008. 11, pp. 766-769.
- ◆上田修一「大学生の情報リテラシー」（特集 情報リテラシー教育）『IAAL ニュースレター』No. 2, 2008, 10, pp. 1-2.
- ◆牛澤典子；岩田智美「ヘルスサイエンス図書館における教育サービス」『医学図書館』55(4), 2008. 12, pp. 309-315.  
「Current Practice in Health Science Librarianship」シリーズの中の教育サービスの巻「Educational services in health sciences libraries」の部分を翻訳・要約したものである。第1章—教えることの背景と倫理 第2章—教えることと学ぶこと 第3章—教育プログラムと資料 第4章—教育サービスの運営 第5章—評価と将来動向、についてそれぞれの章を要約している。これらの内容を見ると様々な利用者教育場面における手法や人材教育、運営方法が書かれている。図書館業務全体における教育サービスの位置づけが述べられている。最後に著者はこの本が利用者を教えることについての論理的裏づけを重視している点を評価しており、日本の医学図書館員も教育サービスについての知識と経験を集積しなければならないと提言している。なお本文の中で『図書館利用教育ハンドブック；大学図書館版』にも触れている。(W. K.)
- ◆岡田孝子「大学教養課程の学生に法情報リテラシーを教える」『大学図書館研究』83, 2008. 8, pp. 42-53.
- ◆忽那一代「京都大学図書館・情報リテラシー教育の現状—全学共通科目「情報探索入門」の11年」（特集・大学図書館と利用教育）『図書館雑誌』102(11), 2008. 11, pp. 778-780.
- ◆桑田てるみ「学習過程に寄り添った情報リテラシー教育—学校図書館



の実践から」(特集 情報リテラシー教育)『IAAL ニュースレター』  
No. 2, 2008, 10, pp. 3-4.

- ◆西条智架「第15回医学図書館員基礎研修会; グループ討議報告 情報検索3: 文献利用に関する利用者教育—図書館員のスキルアップ」『医学図書館』55(4), 2008. 12, pp. 348-349.
- ◆情報リテラシー教育研究分科会「情報リテラシー教育 業務マニュアル骨子の整備化—図書館員が主体となって企画・運営する情報検索ガイダンス」『私立大学図書館協会会報』130, 2008. 9, pp. 128-132.
- ◆鈴木宏子; 武内八重子; 中村澄子「図書館による学習支援と教員との連携: 千葉大学におけるパスファインダー作成の実践から」『大学図書館研究』83, 2008. 8, pp. 19-24.
- ◆野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館—「利用教育」から「指導サービス」へ」(特集・大学図書館と利用教育)『図書館雑誌』102(11), 2008. 11, pp. 762-765.
- ◆橋本春美「東京女子大学図書館における学生支援 GP 事業の展開—マイライフ・マイライブラリー: 学生の社会的成長を支援する滞在型図書館プログラム」(特集・大学図書館と利用教育)『図書館雑誌』102(11), 2008. 11, pp. 774-777.
- ◆畠山珠美「ICU 図書館の挑戦」(特集 国際基督教大学図書館 大学教育と図書館の好ましい関係)『丸善ライブラリーニュース』復刊第4号, 2008. 11, pp. 6-7.
- ◆【図書】Bundy, Alan 他編; 高橋隆一郎編訳『私たちの暮らしにとって情報リテラシーとは何か』第2版 大学図書館問題研究会, 2008. 8, 75p.
- ◆三根慎二; 寺井仁「パスファインダー協同作成支援システムへの取り組み」(特集・大学図書館と利用教育)『図書館雑誌』102(11), 2008. 11, pp. 766-769.
- ◆レファレンス研究分科会「レファレンスサービスと情報リテラシー教育—国公立大学図書館の取り組み事例」『私立大学図書館協会会報』130, 2008. 9, pp. 116-127.

---

#### 【学校図書館】

- ◆杉本洋「情報リテラシー教育を通して育成する PISA 型「読解力」(2)」(PISA 型読解力の向上を旨とする学校図書館・7)『学校図書館』695, 2008. 9, pp. 67-70.
- ◆藤田利江「実践研究 小学校における情報の組織化とパスファインダー」『学校図書館学研究』10, 2008. 3, pp. 55-62.

---

### 【専門図書館】

- ◆和田佳代子「看護職への支援—情報の信頼性と評価をふまえて」『ほすびたるらいぶらりあん』33(3), 2008.9, pp.178-184.

臨床現場の看護職に、評価の高い信頼性のある情報を提供するにはどうすればよいかを述べたものである。(1)ハンディーな文献検索用パンフレットの作成, パスファインダーの薦め (2)利用者教育のやり方, ガイダンスのポイント (3)図書館の広報活動の仕方 などを中心に、特に利用者教育のノウハウに重点がおかれ詳しく述べられている。また図書館員側の課題として自分自身の情報評価能力と情報リテラシー能力の育成を挙げている。さらに利用者のニーズを聞き出す能力の重要性についても言及している。(W.K.)

---

### (6) 編集後記

第72号をお届けします。今号では、来月に京都で開催される第13回図書館利用教育実践セミナーのご案内を掲載しました。関心のある方は、ぜひご参加ください。皆様のご参加をお待ちしております。(春田)

---

### (7) 図書館利用教育委員会委員

#### (委員長)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

#### (委員)

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

天野 由貴 : 椋山女学園高・中図書館

有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー

戸田 光昭 : 駿河台大学名誉教授

野末 俊比古 : 青山学院大学文学部

春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程

和田 佳代子 : 昭和大学歯学部

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

・バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ

[cue@jla.or.jp](mailto:cue@jla.or.jp)

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

---

---

[戻る](#)